



刊夕 日十二月九

事を云つても駄目ツ
選挙は現実主義だツ
商店公休の街に忙はしい足取
雨中を走る選挙自動車

廿五日が投票日である縣選選
選挙は刺すところ数日に迫り
平市部二名、郡部十名、合せ
て十二の頭頭を列ぶる各候補
共に舌戦に総力を注ぐ咽喉の
疲勞も何のその疲れに鞭打つ
奮闘は實に悲壯なもの今廿日
の雨の平市の街頭、併かも各
商店が定期公休で戸を閉ざす
中を駆ける自動車や忙はしい
足取りは何れも只ならぬ関係者
のそれと背かれ演説會回數が
平市管内に於て昨十九日迄に
既に百四十五回なほ是から五
十回はあるだらうとの見込み
其れでも最後の勝利には舌の
及ぶところでないといふ氣を揉
む候補者に演説會を行はれる
のもこれから選挙は勝つこ
とを現実主義だと放言してあ
る某候補の運動員が如きもあ
るやに傳へられ其の筋の監視
警戒も是から一層嚴重である
に相違なく戸別訪問や買収に
對し深刻な注意を拂はれるこ
とになつた

立派な選挙は現実主義だツ
商店公休の街に忙はしい足取
雨中を走る選挙自動車

全五日兩者死に者狂ひの決戦
の結果何れが勝利するか見も
のとされてゐる
富士タクシー
鯨岡鑛泉で
關内候補の演説

平市部縣候補關内正一氏の
政見演説會は昨十九日午後七
時から胡澤澤と久保町の兩所
に開催、胡澤澤八十名、久保
町五十名の聴衆あり今廿日の
後日繰返して演説を行はな
つたが關内(政友)候補との一
騎打ちも刺すところ今二十日
泉登美屋の二ヶ所に開催する

小名濱の舗装工事
既に百米を進工す
順調な進捗で十一月に完成
残る區間は次年度に施行

小名濱町本町通りの道路舗装
は路面の高低に一部の苦情は
あつたが其れを解決した後の
工事が極めて順調に進捗し小
名川橋から西に向ふ町役場前
までに至る六百メートルの本年
事の内、前記小名川橋畔以西
百米を進工し今年度末までに
完成の豫定である同工事は十
一月一杯で竣功を見込まれて
ゐる此の工費三萬圓は地元負
担三分の一で残る六百米(同
町西端部に至るもの)は十五
年度に施行される工費は同じ
く三萬圓、内三分の一を地元
に於て負擔することになつて
ゐるが總延長一千二百米の舗
装が出来た後の日業工場との
區間は同工場と協議の上多分
簡易舗装を施行することにな
らう

皇紀大典に雪崩る
参拜客の輸送計畫
今年中に計畫を立てる

皇紀二千六百年の大典を明年に控ふる鐵道當局では参拜客
の輸送について早くも考慮さ
れてゐるが殊に東北地方から
樺原、伊勢、明治の各神宮に
参拜の爲め雪崩るゝ赤子の大
團體の長距離輸送には仙台鐵
道局の如き昨年來對策に腐心
してゐるところで時局柄輸送
力を他に振り向けられてゐる
事情上結局計畫輸送によつて
緩和することに決し右参拜團
休のうち學生、在郷軍人、青
年團、婦人會等の分は本年中
に取極められるやう各縣當局
に其の時期並びに人員見込み
數及び希望列車などの調査方
を來る十月末までに提出の方
を依頼されてゐるが尚ほ
一般客に對しても管内各縣各
運輸事務所宛にそれ〴〵調査を
命じ十月末までに纏まつた
これ等の報告により輸送計畫
は本年内に組立てられる見込
みである

野崎候補演説
南町の盛況

野崎候補は少數
平市部の民政黨野崎候補の政
見發表演説會は昨十九日午後
六時から南町佐藤自動車工場
と舊城跡警察青年學校の兩所

支那軍
驛長は站長でチアランチ
隊長でチエートイチャ
チアノフアン、機關手
を司機員と書いてス
チーニアン、火夫は司
火でスーホオと云ふ

女青團白衣勇士
に洗濯裁縫奉仕
石城郡勿來町女子青年團二十
八名は去る九日宮城原陸軍病
院分院に白衣の勇士を慰問し
と云はれてゐる
洗濯、針仕事の奉仕をなし尙
ほ靈神社に出征勇士の武運
長久を祈願、守護札二百五十
体を承けて第一線勇士に送る
守護札袋を一同でつくつてゐ
る

戦地の便り
顔は何れも眞黒
齒ばかりが白い
平市紺屋町出身
(下)松田 一

坂本昌藏君も頑健です
市調査員出身
鈴木 勤次

國婦第二分會の
優良な成績
平支部内の模範

國婦平支部の役員
評議員 淺水その子 山崎
ヒサ子 永島トヨ子 佐藤
ハル 榎村コク 伊藤ヤス
田名網タミ 永山貞子 服
部シキ 大井川キチ子 吉
田キヨ 中山敏子 小野テ
子 ▲顧問 郷軍第三正副分
會長 青沼勢子

運搬夫坑内即死
石城郡内郷村の高坂繁栄住吉
坑運搬夫小川金之助(五〇)は去
十七日夜九時頃坑内作業中炭
車にはね飛ばされて即死する

兒童の國防献金
石城郡勿來町小學校兒童楯坂
千代さんは小遣錢をためた一
圓十三錢を去る十八日楯田署
を通じて國防献金した

農事特別傳習
縣農試石城分場に於ける農事
特別傳習會は來る廿七日(舊
八月十五日)同場講堂に開
催されるが今回の題目は「稻
の收穫調整と水田裏作法」講
師は本場本橋正太郎氏である

盲生から慰問袋
平市部の前警城訓盲院生徒杉
幸子さんは皇軍への慰問袋一
個を送付方今二十日平市役所
に寄託した

辯士
堀切善兵衛
助川啓四郎
佐藤善一郎
佐藤庄太郎
木村清治
關内正一
責任者 平市大工町二五 多田井美次郎

立憲政友會
公認候補者 關内正一 發表 演説會
廿三日午後
七時より 場會
平市公會堂
平第三小學校
平第四小學校

文魁文堂
電話三二三

新興ダイヤペン付
ウエル萬年筆
一、五〇以上
商工省主催「代用品
工業振興展覽會」出
品申込の各種代用品
一萬五千點中萬年筆
としてはウエルた
一點嚴重なる鑑査に
合格したる新興國策
製品

高島屋洋服店
御誂ひも既製品も
平二電二六六



梨の二品種

廿世紀と菊水の交配
梨の新種二つを紹介する、
二つ共に川崎市の宿河原、縣
東部園藝試験所が中郡二宮園
藝場で作った新種一六五八號
並に一六五二號を試験的に昭
和十二年春採種、その経過を
見てゐたもので本年初めて結
實一六五八號を市場に初出荷
したところ非常な好評を博し
た、兩種共に未だ正式の名は
ついてゐないが何れも廿世紀
に菊水を交配したもので、
一六五八號の方は八月下旬
旬に出荷出来る早生で他の
梨のトップを切り八雲、廿
世紀に比し果形は色澤良好
甘味強く肉質稍劣る一六五
二號は晩生(十一月月上旬)で
もう他の梨のない頃出荷さ
れ果形は極めて大(青梨の
中で最大級)色澤美麗、甘
味極めて強く肉質柔軟で
兩方とも廿世紀より生産費は
二、三割安く収穫は二、三割
高と云ふ経済的なもので値段
は廿世紀より二、三割安だが
結局は市場で無競争であるた
め將來を有視されてゐる
序は川崎農會が斡旋する多
摩川梨市況を述べる同地出荷
共同組合で稲田第二小學校に
於て多摩川梨の試食會を開い
たが今年の多摩川梨は平年よ
り幾分悪く約一割の減收だ、
然し値段は昨年より二割五分
の高値となつてゐるから收入
の點から云へば約一割の増收
と見られてゐる、更にこれを
各種に付て見れば、
廿世紀を初め青梨は一般に
悪く平年より二割減(黒班
病が流行したため)赤梨は

平年作で現在最盛期にある
ものは廿世紀(化粧箱一箱
一四廿錢)菊水(同九十錢)
で一日トラック十五台乃至
廿台(一台千貫)でいまだ多
忙を極めてゐる。
一般印刷物も
御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

肉の御用命は

三三三屋

牛も豚も優良品の自慢

正確な体温計
なる寒暖計(種各)
計量器指定販賣
平市五丁目角
山野邊藥局

お醤油はヤママル
醤油、味噌
たひら正宗
節食料品

明治生命製城代理店
山崎與三郎

産科婦人科 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 木村病院
病室完備
平市新川町九一 電話一六四番

便利で目下家政婦會の
經濟な派用婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから
何を任せしても安心です
平市白銀町十番地 (電話七二三番)
◎目下家政婦會
會員同志の御加入(派用なき閑暇に縫紉や
を御誘ひ致します(編物をお教授致します))

新時代の要求
附屬事業に等外看護婦を特設いたし
皆様の御用命へ身元確かなる婦人を
派出致します
平市南町 平看護婦會
電話三七〇七
經濟的御便
宜御用命を
願ひ致します

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町一電話二六九番

専門 皮膚科 泌尿器科
性病科 外科
時間 午前八時より
午後九時まで
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番
院醫尻江

カバと洋品類

眞砂屋 (前平市、新通)
電話五六五

國民精神總動員
日本國民必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報
1部10.セン
お取次致して居ります
平 西村屋藥局 電三

電話五九二番
に變りました
喫茶、酒場を兼ねた。
レストラン
サロンの
平市銀座街

平病院 (平市元共済病院跡)
院長 醫學博士 鈴木定藏
今般、醫學士土井利明氏を副院長として招聘し
内科、小兒科の診療に従事せしむ
内 科 院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 鈴木定藏
内 科 副院長 高橋俊幸
皮膚科 院長 鈴木定藏
泌尿器科 院長 鈴木定藏
物理療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に従事す(急患は此の
限りにあらず)

和洋雜貨、金物問屋
益廣商店
九九・九〇